

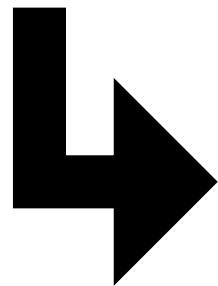
新潟大学附属幼稚園の

研究の取組

研究主任 山田 舜

附属幼稚園では

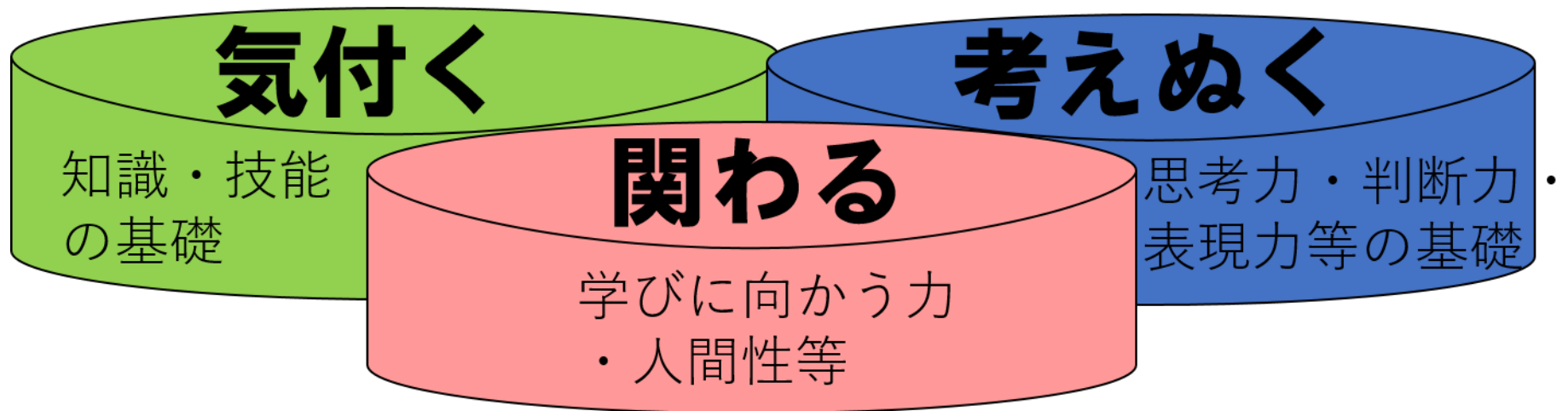
自分らしさを発揮し、
もの・人・ことに主体的に
働きかけて遊び込む



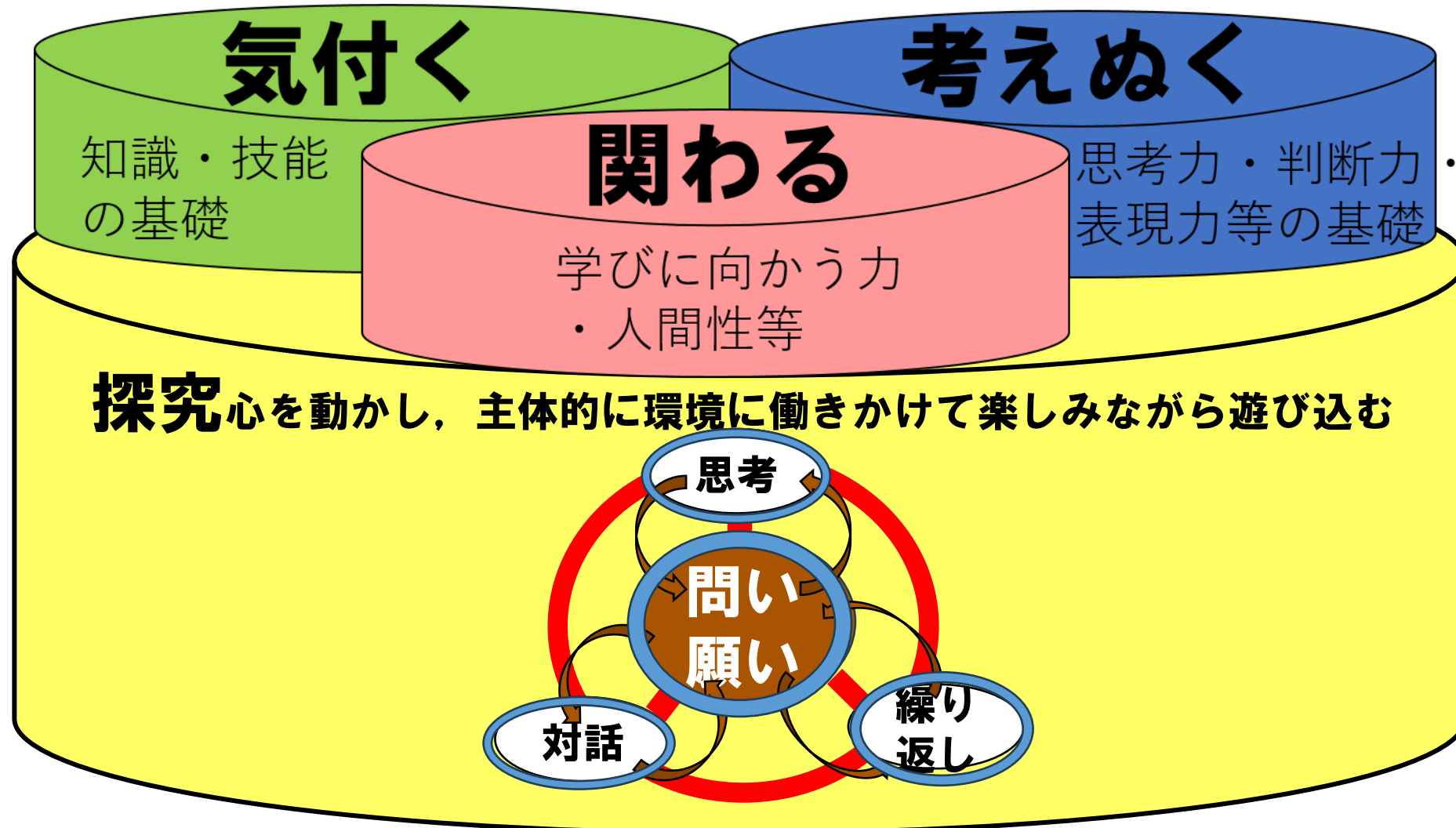
探究

附属幼稚園では

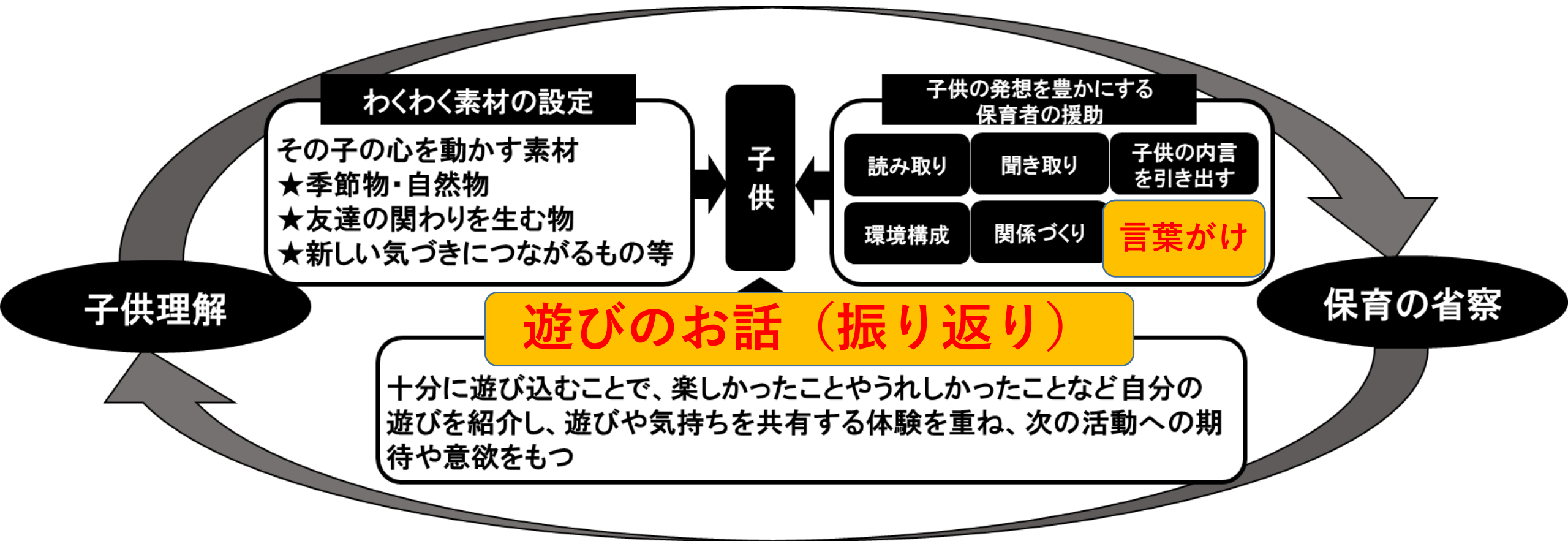
幼児教育において
育みたい資質・能力の三つの柱



附属幼稚園では



子供を支える援助



昨年度の重点 遊びのお話



昨年度の**重点** 言葉がけ

子供なりの気づきをフィードバックしていく

空気への気づき

どうやったら空気が出るかな？

たたくと空気が出るんだ！

飛ばすもの、
たたき方への
気づき

音楽に合わせて
飛ばしてみよう

昨年度の**成果**

多様なフィードバックの手立て

受け止める

共感する

問いかける

気づきを
促す



願いをもって、遊び続ける姿

昨年度の課題

多様なフィードバックの手立て

受け止める

共感する

問いかける

気づきを
促す

一方で

具体的な検証には至らず…

令和7年度の**重点**

子供の何に、どのように
共感するのか

「その子らしさ」への共感

子供を支える援助

共感的な援助

わくわく素材の設定

その子の心を動かす素材

- ★季節物・自然物
- ★友達の関わりを生む物
- ★新しい気づきにつながるもの等

子供

子供の発想を豊かにする
保育者の援助

読み取り

聞き取り

子供の内言
を引き出す

環境構成

関係づくり

言葉がけ

子供理解

遊びのお話（振り返り）

十分に遊び込むことで、楽しかったことやうれしかったことなど自分の遊びを紹介し、遊びや気持ちを共有する体験を重ね、次の活動への期待や意欲をもつ

保育の省察

年長5歳児 「みんなで作った海」

保育者 佐々木 颯

遊びの概要

水を溜めて
船を作ろう

これが
浮くんだ

海に船が
いっぱいだ

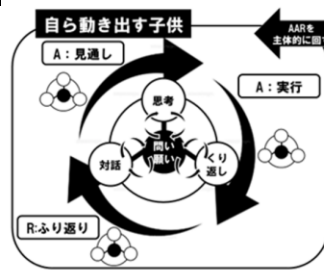


探究の過程 年長児の姿

もう水は
もれない

「次は船を
作ろう」

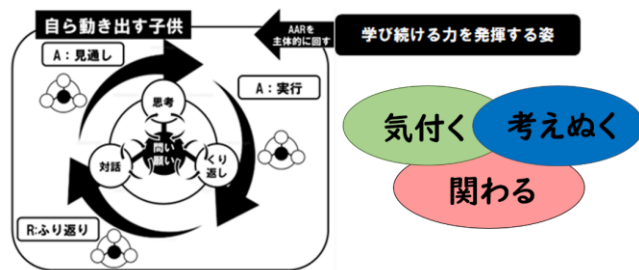
これは浮くけど、
こっちは浮かない



気付く
考えぬく
関わる

探究の過程 年長児の姿

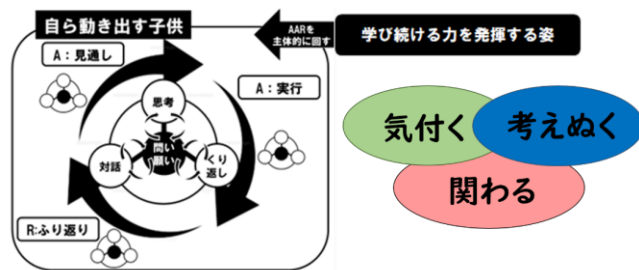
Aさんと同じ目線で、
「浮く」「沈む」を
感じよう



何が浮くんだろうね



重たい方が浮くよ

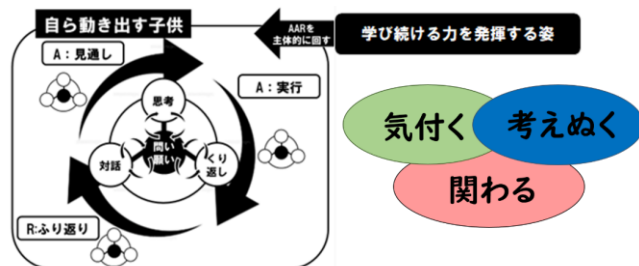


探究の過程 年長児の姿

「浮いた
イエーイ」



沈んでる



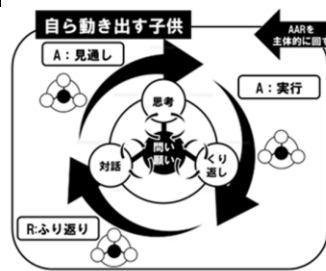
探究の過程 年長児の姿

これ
浮くんじゃない

沈んだ！

浮いた！

片付けの時間にも浮いているものを見て、気付いていたな
友達と経験を共有することでAさんの探究が深まるのでは



学び続ける力を発揮する姿

気付く 考えぬく

関わる

探究の過程 年長児の姿

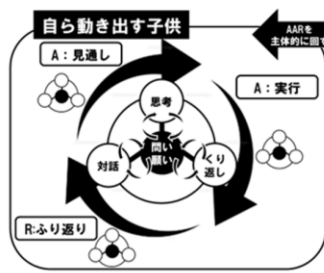
これ
浮くんじゃない

沈んだ！

浮いた！

どれが
浮くかな

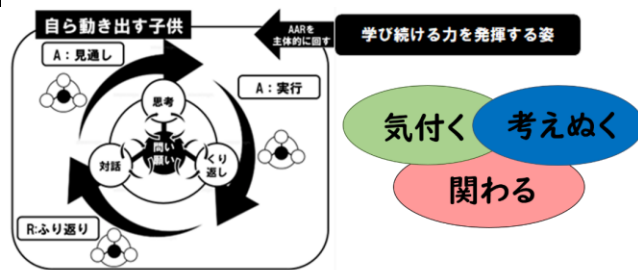
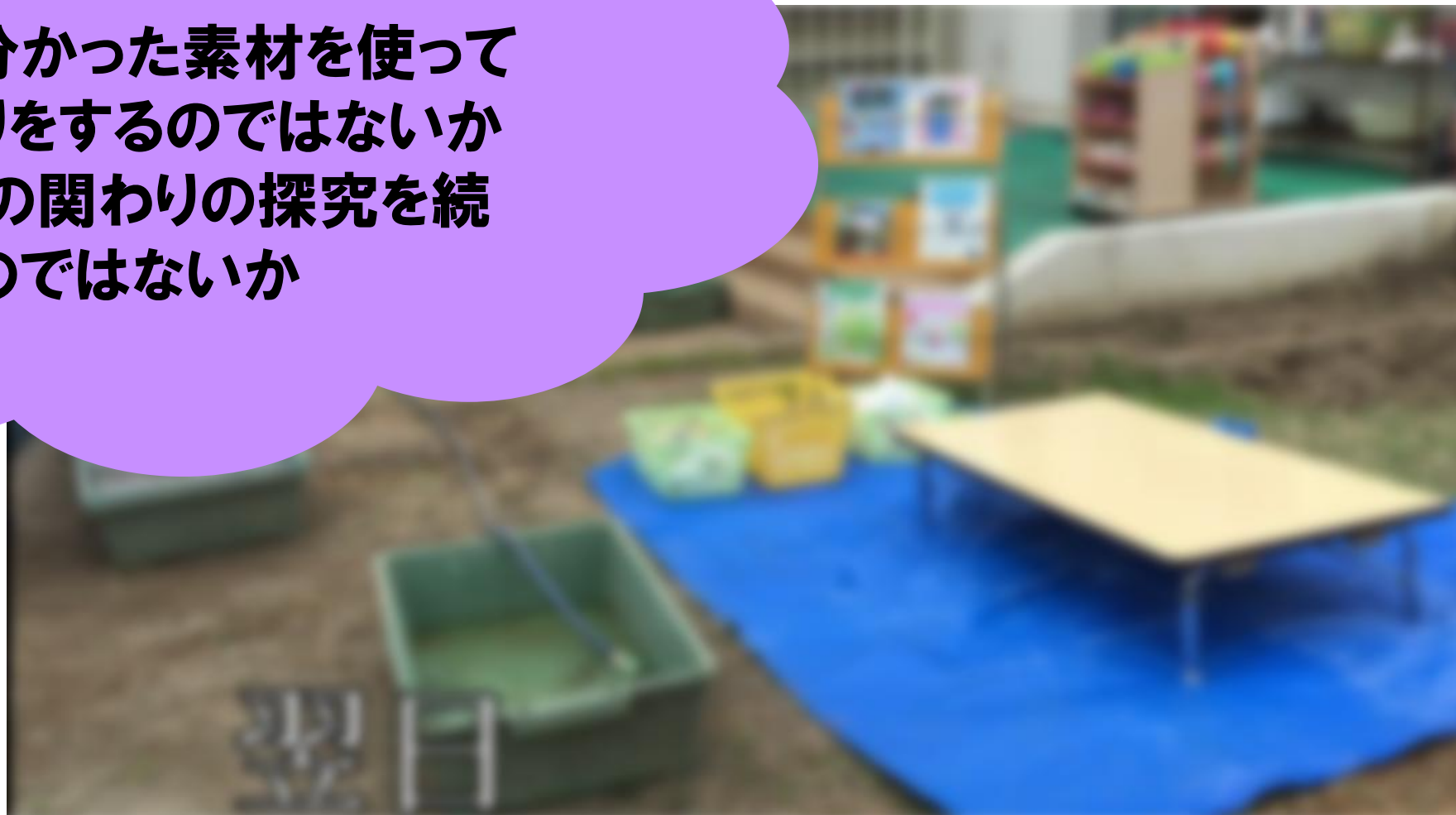
他の素材
はどう



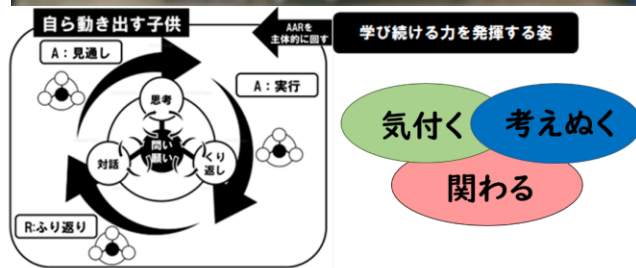
気づく 考えぬく
関わる

探究の過程 年長児の姿

- ・「浮く」と分かった素材を使ってものづくりをするのではないか
- ・水と素材の関わりの探究を続けていくのではないか



- 水を溜めておく
- 素材置き場を海の近くに



経験をもとに海について知っている
ことを伝え合いながら、本物らしくして
いく。「海はどんどん深くなるんだよ」
「砂浜は砂の色が白いんだよ」
牛乳パックやプラスチック容器で海
賊船を作って海に浮かべる。
「船がいっぱいだね」という友達の声
を聞いて、海を広げる。

力の発揮と共感的な援助

思いついたことを試しながら、素材の特徴に気付く

気付いたことをもとに、考え、工夫して思いをかたちにする

経験や考えを言葉でやり取りしながらイメージを共有する

子供と共に、不思議がり、面白がり、探究を深めていく
思う存分試せる、試したことをもとに思いをかたちにできる環境構成

今年度の**重点** 共感的な援助

子供の
気持ちに
共感する

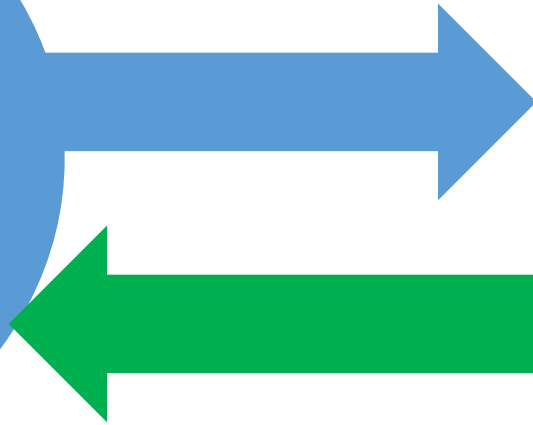
子供が
求めることを
共に求めていく

今年度の**重点** **共感的な援助**

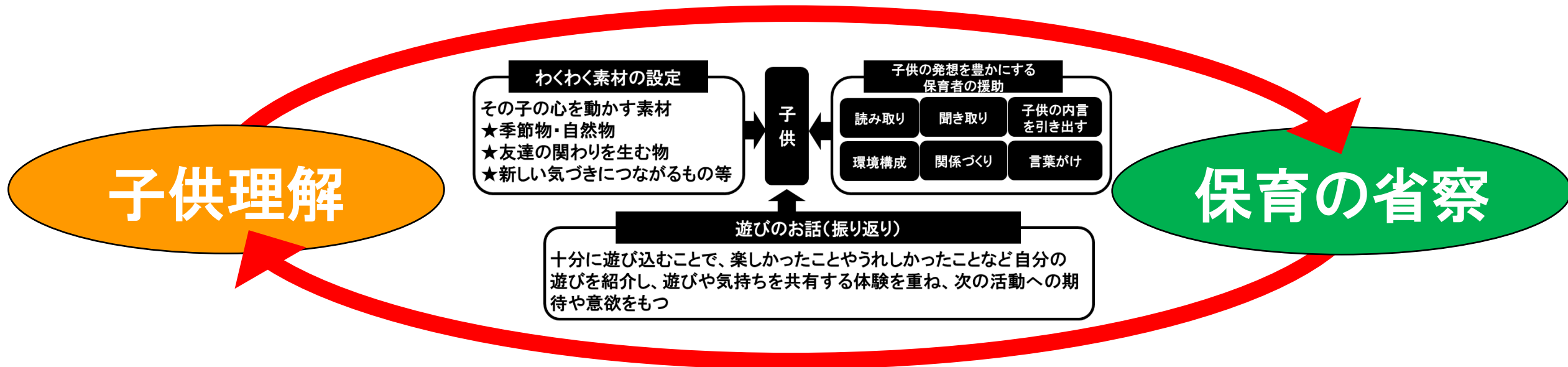
共感的な援助を通して、子供の探究を支えていく

日々の
保育実践

「共感」の
在り方を
問い直す



保育の質向上に向けた研修の取組



1. 研修システム

2. 子供理解研修

3. 園内研究保育

1. 研修システム

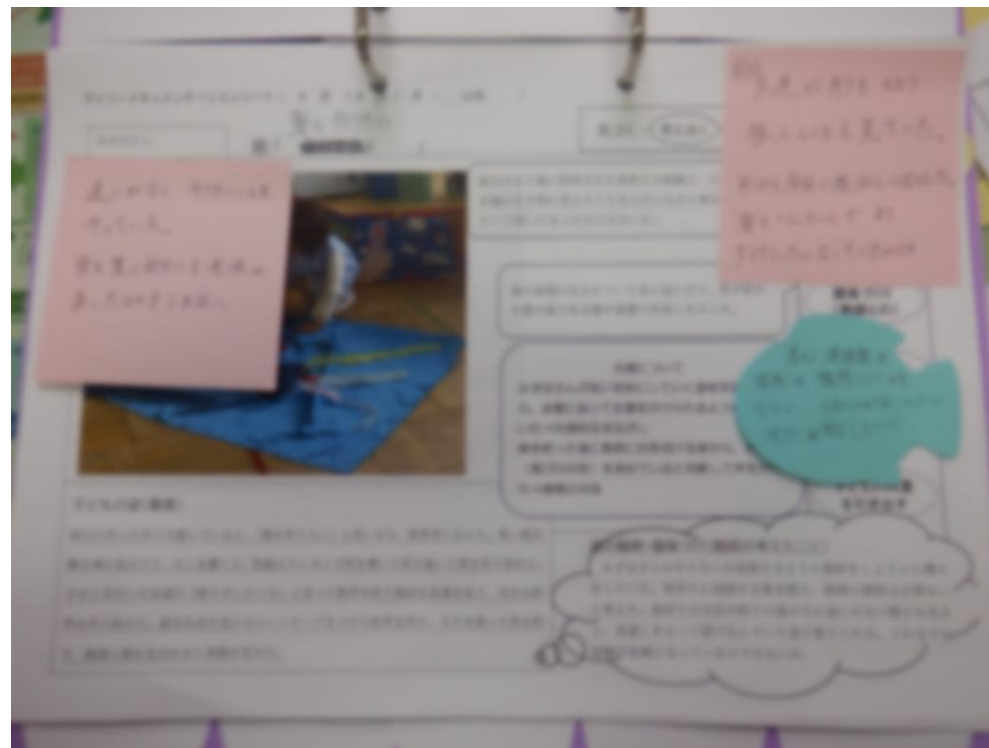
①デイリードキュメンテーション

日々：自身の保育を振り返る

- ・子供の姿
- ・その姿のとらえ
- ・そこでの保育者の関わり

ホワイトボードに掲示

⇒付箋で考えを共有



1. 研修システム

②ウィークリーカンファレンス

週に1回：全職員の情報共有

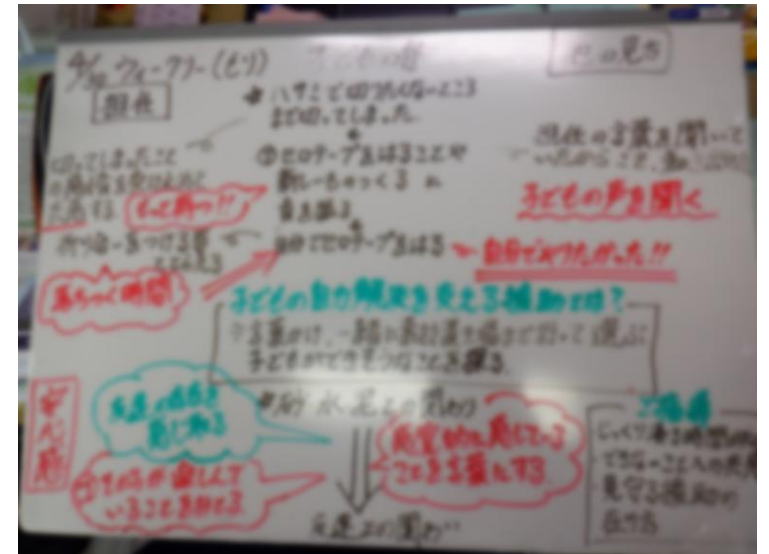
- ・デイリーの紹介
- ・その姿についてのとらえを語り合う



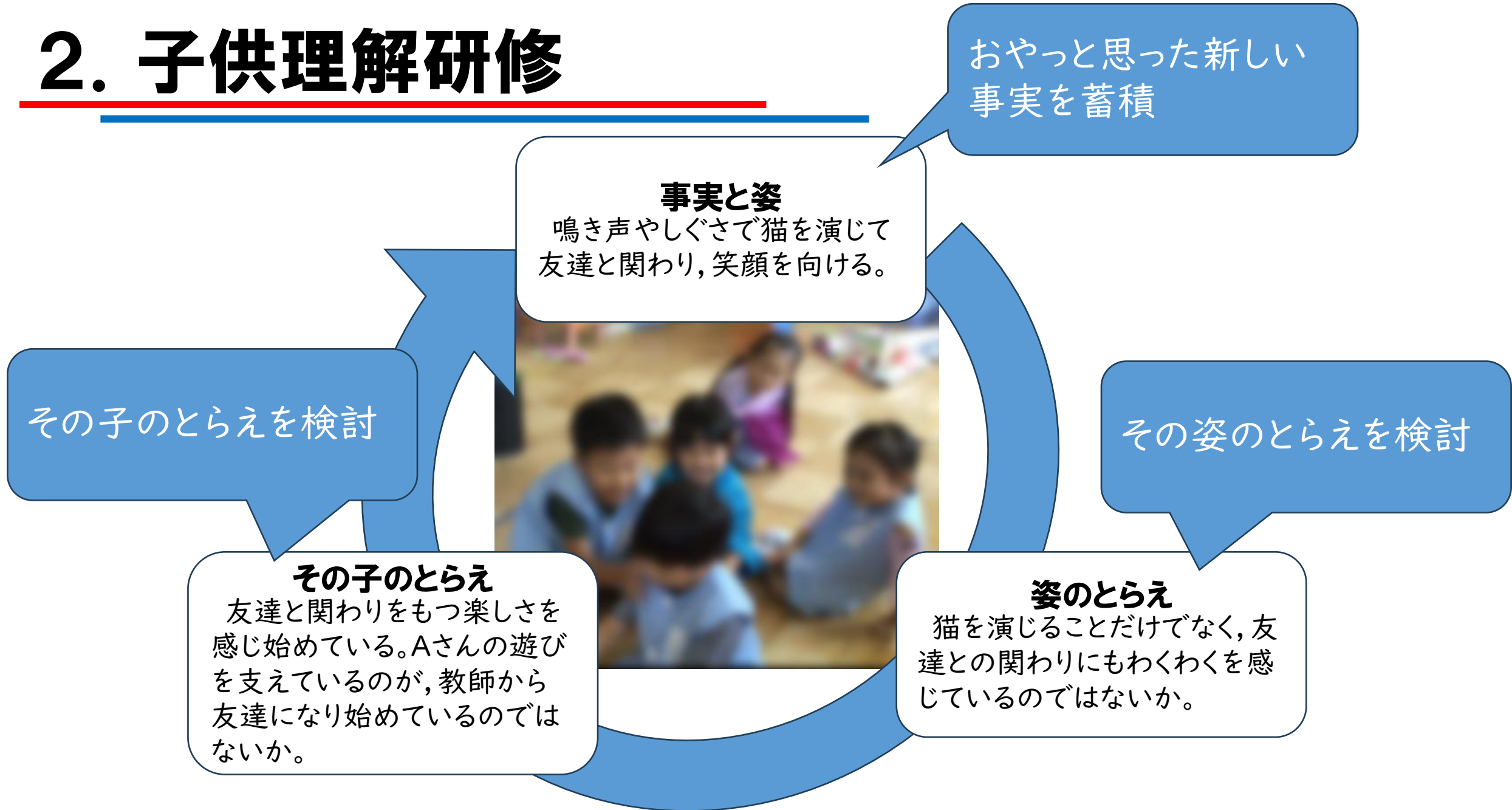
③マンスリーカンファレンス

月に1回：学級ごとに振り返り

- ・子供の育ちを振り返る
- ・今後の援助の在り方を考える



2. 子供理解研修



3. 園内研究保育

①研究保育



全職員で保育を参観

抽出児の捉えに基づいた援助の在り方を見合う

②保育カンファレンス



子供の姿とその解釈を協議

多面的に子供を理解する力を高める

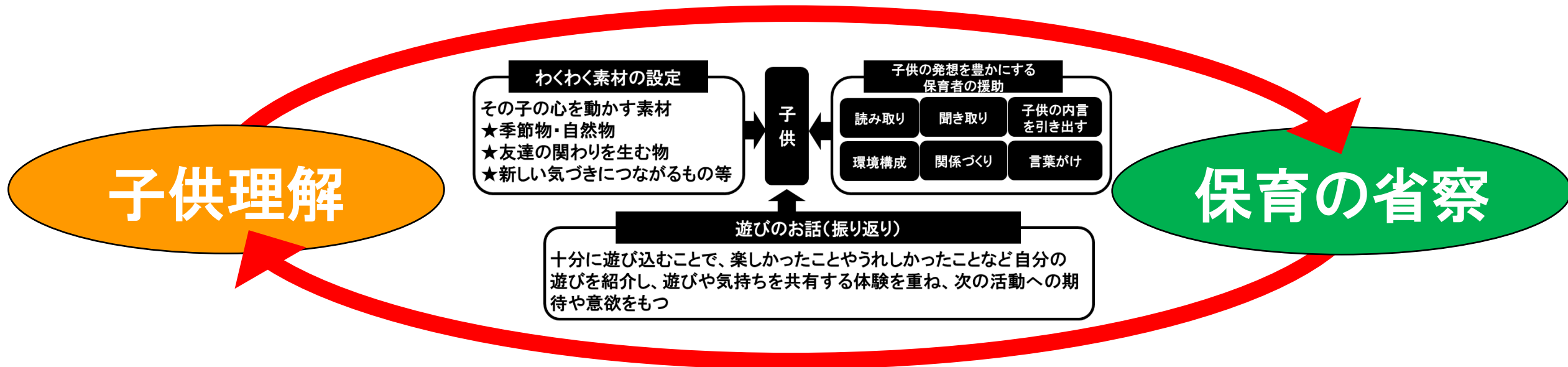
③保育リフレクション



保育課題についての対話
リフレクション

子供の姿から自身の保育を省察し、保育改善を行っていく力を高める

保育の質向上に向けた研修の取組



1. 研修システム

2. 子供理解研修

3. 園内研究保育

引用・参考文献

- ・文部科学省『幼稚園教育要領解説』平成30年3月
- ・佐伯胖『共感 育ちあう保育のなかで—』2007年 ミネルヴァ書房
- ・佐伯胖 他『子どもを「人間としてみる」ということ』2013年 ミネルヴァ書房